



(組合員の購読料は組合費に含まれます)

港区新橋5-15-5 交通ビル 国労東日本本部 発行責任者 伊藤秀樹 編集責任者 伊藤隆夫

No. 669 定価 20円

2008年

2月 27日

もう一人の仲間を国労に 拡大委員会特集

総団結 総決起を

不採用事件の政治解決 「公正・公平」な人事考課体制を 組織拡大 実現に向けて

第25回 国労東日本 拡大委員会



東京では珍しく積もるほど雪の降る2月3日、国労東日本本部は第25回拡大委員会を東京・新橋の交通ビルにて開催し、昨年の定期大会以降取り組んだ秋・冬季年末闘争の総括から、当面する闘争方針を意思統一した。今号は、委員会報告とする。

松井副委員長の司会挨拶で始まった国労東日本第25回拡大委員会は、東日本委員20名中19名と役員・特別委員の全構成員の出席を確認し、委員会成立を宣言。議長には粕尾委員・長野地本、副議長

長には厚沢委員・東京地本を選出し幕を開けた。執行部を代表し挨拶にたった伊藤委員長は、冒頭「本委員会は、『仕事総点検運動』『安全総点検運動』を通じ『職場の活性化』にむけた『職場力と交渉体制の強化』を図り、『技術力の維持向上』『安全・安定』輸送確立に向けた取り組みに全力を上げ、労働条件改善の闘いを進めることの重要性を認める委員

力と交渉体制の強化』を図り、『技術力の維持向上』『安全・安定』輸送確立に向けた取り組みに全力を上げ、労働条件改善の闘いを進めることの重要性を認める委員

会に！」と強調、4点について挨拶（別掲）し委員会の真摯な討論を要請した。

来賓は全国交通共済東日本事業部より宮坂本部長を迎え、今年度よりJR東日本においてエルダー社員制度が実施される中で、『総合共催』継続利用の取り扱いについて」の提起を中心に挨拶をいただいた。続いて、弁護団報告を福田・海渡両顧問弁護士を紹介し順次ご挨拶いただいた。

採用差別 濱中本部書記長 年度内を最大の山場に

国労本部からは浜中書記長と栗原執行委員が出席。代表して浜中書記長が採用差別問題に絞って



委員長 伊藤秀樹

解決の年 全組織が奮闘する 決意を

①08春闘の取り組みが進められているが、中央委員会では1万円の要求が決定されている。「未組織労働者」「非正規労働者」の生活改善も課題として取り組みを強めなければならない。②不採用事件は、「政治が解決する課題」であり、政治環境は到達している。08年を解決の年とするため「4者4団体」の「総団結」で全力を上げること確認したい。③今年には総選挙が予想される。「反戦平和・護憲・民主主義、人権擁護・反差別」な

どの闘いの前進を期する政党・候補者の全員当選に向け奮闘を要請する。④昇進試験について和解の精神・趣旨を踏まえ、各級機関は「公正・公平」な運用を求める取り組みとして、昇進試験の受験体制確立と検証と履行を求める取り組みの強化を。⑤組合員資格を持つ東労組の助役や現場長が「公正・公平」な人事考課・労務管理を行って、いるとは受け取りにくい。私たちは、人事・人事考課・労務管理・個人情報管理などは「組合員資格のない」現場長・助役が適正に行うよう改善を求めていく。本委員会は、組織拡大に向けて全ての組合員・各級機関が「総団結・総決起」に奮闘する決意を。

現局面を報告。「この間の取り組みにより、陣形と窓口と障害を取り除くことが出来た。2・3月が過去最大の山場となる。政治の動きと大衆闘争をリンクさせ全力を上げる。」と当面する行動への集中を訴えた。

昼食休憩に入った。午後の議事は経過・闘争方針（案）に対して一括しての質疑・討論から再開。発言では、重要な局面を迎えている東京闘争団・松本副団長、組織拡大に取り組んでいる青年部・彦田常任委員の特別発言をささみ、13名の委員から発言を受け、高野書記長の集約答弁（別掲）で経過・当面する闘争方針（案）をそれぞれ全体の拍手で承認、採択された。

国交運共済より提起のあった「エルダー社員の総合共催継続の扱いについて」を高野書記長より提案、全体の拍手で承認。執行部側より用意されていた特別決議2本・委員会宣言の各（案）文については、天候不順さらには議事日程の関係から議長団の取り計らいで委員会宣言のみの採択。予定の時間で議長団解任。松井副委員長の閉会挨拶から木村青年部長の団結ファンパローで意思統一とした。

佐々木婦人部長の祝電紹介に続き、高野書記長から経過報告及び「当面する闘争方針（案）」について一括提案。山根執行委員からは、協約・協定の締結承認についての提案を行い全体の拍手で承認を受け

その他の議題では、全

た。

言 発 員 委

不採用事件・・・運動と結びつけた政治解決を
全面一括和解・・・目に見える成果を
エルダー・・・組織化と運動を
出向・・・出向先での運動の展望を

原子委員 (仙台)
① 工事職場の仲間が、05年「悪性胸膜中皮種」により現職で死亡、今年1月に労災認定。認定までは大変な道のりだった。取り組みの強化を！② 苦労して取り組みんだ制度改善署名、活かす取り組みを！

福富委員 (新潟)
① 新潟は東労組の分裂でゆれている。みんな今の状況に危機意識を持っている。地本としては、情報の発行など分会活動の強化を一体として取り組む。② 14年北陸新幹線が開業予定。並行在来線問題について、存続に向け本部の協力を！

高山委員 (東京・大宮)
① 「駅のあり方」実施に伴い、業務委託が進み出向社員が増えている。現在、大宮支社との交渉には出向者は参加できない。団体交渉に出席できるように本部の努力を！

一日も早い解決を

松本発言 (東京闘争団)
① 闘争団の闘いは21年目、1047名中47名が亡くなり、ケガや病気で働けない人も多く、退職年齢である

60歳以上も約200名。② 二つの判決により鉄道運輸機構は解決を引き延ばせない。一日も早い解決を！

契約社員の労働条件改善を

彦田発言 (青年部)
① 青年部運動が厳しい状況を向かえている。青年部は夏季交流会と、今年初めて新規加入者との学習会を開催。② 現在、駅職場に契約社員の導入が進んでいる中で彼らの労働条件にも視線を向けた取り組みの強化を！

井村委員 (千葉)
① 不採用事件に向け、11・30集会に千葉から300名が結集した。この勢いを各種行動に結びつけた取り組みを。② メンテ合理化から6年、出向先で闘える基盤作りを。③ 新入社員対策の具体的中身を。

日野委員 (東京・中央)
① 相次ぐ輸送障害事故等の原因は、技術力の低下、要員を上回る業

務量にある。点検活動を強化する。② 工事監督業務を委託しているのに、監督命令が区長にされている。偽装請負や労働者派遣法違反の疑いがある。③ エルダー社員の組織化を。
渡部委員 (東京・八王子)
① 駅の一括業務委託、多くの問題がある。委託会社との労使協定がない中で、本部としてどう対応していくのか。② 定年延長、「駅のあり方」施策の抜本的な見直しを。仕事・安全総点検活動の強化に全力をあげる。



西野委員 (東京・上野)
① メンテナンス体制に大きな問題がある。積み残しの出向職場の団交なども早急に取り組

出向職場の団交を

高橋委員 (秋田)
① 全動労判決で9・15判決同様不法行為が認定された。政府・運輸機構に早期解決を求めて更に大運動の展開を。② 08春闘は設備・業務改善アンケート、施策検証、春闘講座、レクなどを通して、組合員の団結強化に努めていく。

笹山委員 (盛岡)
① 1047名問題では、音威子府との支援体制が再開し、取り組んでいるが、闘いの場合は中央・東京。② 組合員は、和解が目に見える

本部は知恵と汗をだして

成果でなければ納得できない。東日本本部は知恵と汗を出して取り組んで。② 新出退勤システム「ジンジャー」は、多くの問題点が出てきている。③ 一括和解後、まだまだ国労差別が払拭されたとは、職場では感じられない。本部の強い指導と闘いを。



高野 書記長集約

一・2008春闘について

「ワーキングプア」と言われる層が増大させられ、増税・物価高は生活へ直結した深刻な問題である。国労の賃金アンケートから、生要求は六万円台であり、旅客・貨物とも、格差を許さない観点から一万円賃上げに全力で取り組む。また、制度改善要求をJR東日本会社に提出し、署名についても、交渉の進展に合わせ、提出していく。

二・採用差別事件の早期解決について

「四者・四団体」の団結も深まり、11・30集会の成功に結びついてきた。全動労判決も早期に解決する条件として活かし、2・15集会、三月行動に全力上げる。

三・組織強化・拡大について

一つ目は新採の獲得ですが、○名加入。職場では歓迎、チャレンジサポーターを通じた東労組加入がされている。支社段階での取り組みも強めて欲しい。具

体的には2・14書記長・組織部長会議で意思統一する。一括和解以降の取り組みとして、① 分会調査結果に基づく改善事項、② 公平・公正な人事を定めることは当然であるが、現場長・助役が適正に対応するように弁護団とも相談し検討する。昇進・昇格試験についても、受験体制を確立し、和解に基づく対応を求めていく。

また、ブロック別に全分会長会議を開催し、具体的意志統一を行っていく。

四・労働条件改善、安全・安定輸送確立

実施された会社の施策の問題点について、もう一度見直し点検し、改善を取り組む。既に、安全・安定輸送をめざし、検証委員会を発足させてきた。今後、検証を進め、技術継承問題と結合させ取り組みを進めていく。

五・アスベスト問題の取り組み

仙台での認定、神奈川等裁判について全力支援する。そして、アスベストの危険性について喚起していく。

六・総選挙・政治闘争

政治課題と合わせ、採用差別事件の解決に向け、反戦平和・護憲・民主主義擁護・反差別を託せる候補者・政党の全員当選に全力で向け取り組む。

高橋委員 (高崎)

① 出向連の強化、再雇用先での国労分会結成など大会方針はどうなっているのか。② 非正規労働者を増大させ、格差を見せつけている。国労の要求は。③ シニア・エルダー・出向先職場での運動作りが求められている。④ 貨物の8年連続ベアゼロをさせないためにもストを。

菊池委員 (水戸)

① 国鉄闘争、11・30集会の成功、全動労判決の機運から政治解決の道筋を。② 労働条件改善、職場点検プロジェクトを発足させ、要求改善を取り組んでいる。パートナー会社の労働実態、エルダー社員の労働条件改善を。

アスベスト・遺族と組織で

服部委員 (東京神奈川)
① アスベスト裁判の原告が勝利判決を聞くこと無くな

結果でなければ納得できない。東日本本部は知恵と汗を出して取り組んで。

② 新出退勤システム「ジンジャー」は、多くの問題点が出てきている。

③ 一括和解後、まだまだ国労差別が払拭されたとは、職場では感じられない。

本部の強い指導と闘いを。

① 1047名問題では、音威子府との支援体制が再開し、取り組んでいるが、闘いの場合は中央・東京。

② 組合員は、和解が目に見える

結果でなければ納得できない。

東日本本部は知恵と汗を出して取り組んで。

② 新出退勤システム「ジンジャー」は、多くの問題点が出てきている。

③ 一括和解後、まだまだ国労差別が払拭されたとは、職場では感じられない。

本部の強い指導と闘いを。

① 1047名問題では、音威子府との支援体制が再開し、取り組んでいるが、闘いの場合は中央・東京。

② 組合員は、和解が目に見える